

**Vox**

**Oct 13, 2023**

**ガザ紛争について、ユダヤ系アメリカ人のコンセンサスはない**

**There's no Jewish American consensus about the conflict in Israel and Gaza**

<https://www.vox.com/23915948/jewish-american-israel-gaza-war-attacks-opposing-beliefs-progressive-movement>

**By Marin Cogan**

この週末にイスラエルでテロが発生したとき、多くのユダヤ系アメリカ人が最初にしたのは、イスラエルにいる家族や友人に連絡を取ることだった。

イスラエルは小さな国であり、車で6時間足らずで端から端まで行ける。そこに世界最大のユダヤ人コミュニティが存在する。いっぽうユダヤ人人口が一番多いのはアメリカであり、この2つのグループのつながりは深い。

ユダヤ系アメリカ人の多くは、イスラエルに親戚や恋人がいる。イスラエルは死者の規模も大きかった。

1,200人のイスラエル人が殺され、数千人が負傷した。このため、ほとんどすべての人が、身の周りに犠牲者がいる。

この1週間は、ユダヤ系アメリカ人にとって、現代の記憶の中で最もつらい1週間として記憶されるに違いない。

イスラエルとパレスチナの双方で罪のない人々の命が失われた。それに対する悲しみがある。さらに、イスラエルがガザに反撃を仕掛けることで、今後も恐ろしい死が続くという予想である。

すでに金曜日早朝の時点で、500人の子どもを含む1500人以上のパレ

スチナ人が死亡し、約 6600 人が負傷している。

イスラエルは、ガザ地区の北半分に住む 100 万人以上の住民に避難を命じた。国連はこの措置は「壊滅的な人道的影響」をもたらすだろうと非難した。

アメリカのユダヤ人は、伝統的に一枚岩ではない。「2 人のユダヤ人に 3 つの意見」という古い格言があるくらいだ。

私たちは結束は固いが多様な人間からなるコミュニティであり、異なる人種、宗派、政治的信条を持つ人々で構成されている。私たちはそういう雰囲気の中に、安らぎや支えを見出す。

しかし、急速に展開する悲劇、そして私たちが外界からどう見られているのか、それがいかに深い孤独をもたらすか発見している。

### **ユダヤ系アメリカ人の考えが変わりつつある**

いまイスラエル政府が右翼化し、パレスチナ人社会への暴力的な支配が長期化する中、政治と世論が激変している。

より広範な世代間の変化もある。若い世代のユダヤ系アメリカ人は、よ

り進歩的で、イスラエルに批判的である。

米国をはじめ世界中で反ユダヤ主義的暴力が増加している。

多くのユダヤ人学校や寺院は、ここ数年の反ユダヤ的ヘイトクライムの増加を認識し、閉鎖するか警備を強化した。

すでに激震が走っている今、イスラエルの右翼化と反ユダヤ主義という矛盾は、アメリカのユダヤ人に複雑な問題を投げかけている。

### **イスラエルが極右化すると同時に、リベラル派のイスラエル観も変化している**

有権者全体の 2.4% を占めるアメリカのユダヤ人は、強固なリベラル派であり、長い間民主党の中心的な支持層のひとつであった。

2020 年におこなわれた調査では、ユダヤ人の 71% が民主党支持または民主党寄りであった。

2019 年のギャラップ社の世論調査データによると、ユダヤ人は米国で最もリベラル寄りの宗教集団である。アメリカのユダヤ人は圧倒的に反トランプで、彼の大統領就任後もそれは変わらなかった。

彼はイスラエルの指導者ネタニヤフを無批判に受け入れ、正統派ユダヤ教徒の支持を得たとしても、それは変わらなかった。

最近の調査では、アメリカのユダヤ人はジョー・バイデン大統領を強く支持している。2022年4月のユダヤ人選挙民研究所の調査では、ユダヤ人有権者の間で大統領の支持率は63%だった。これは一般市民の支持率より21ポイント高かった。

1948年のイスラエル建国以来、二大政党の指導部は、大多数のアメリカ人ユダヤ人と同様、イスラエル国家への強い支持を維持してきた。しかしここ数年、民主党はイスラエルとパレスチナの紛争に対する見解を変えてきている。

## ギャラップの世論調査がしめしたものの

2023年4月に発表されたギャラップの世論調査は、この重要な変化を記録した。この世論調査の歴史で初めて、民主党はイスラエル人よりもパレスチナ人に共感を示したのだ。

49%がパレスチナ人に共感すると答えたのに対し、イスラエル人には38%だった。

これに対し、共和党支持者は引き続き、圧倒的にイスラエルに共感すると答えた。

ギャラップ社によれば、「民主党議員のパレスチナ人への共感は、過去1年間で11%ポイント上昇した」という。

注目に値するのは、共和党と民主党の過半数がイスラエルという国に対して好意的な見方をしていると答えたが、その数は共和党（82%）よりも民主党（56%）の方がはるかに低かったことだ。

この変化は、主にネタニヤフ首相のもとでイスラエル政府が近年右傾化していること、そのためユダヤ系リベラル派がイスラエルを擁護することが難しくなっていることと重なる。

2008年、ハマスのロケット弾攻撃を受けてイスラエルが行ったガザへの軍事攻撃では、数百人の子どもを含む1,400人のパレスチナ人が死亡した。それはアムネスティ・インターナショナルのような組織から非難を浴びた。

2014年には、イスラエルの10代の若者3人が殺害されたことを受けてイスラエルがガザに侵攻し、パレスチナ人が2,300人以上殺された。いずれのケースでも、軍事力の差は歴然としている。それがパレスチナ人側にはるかに高い死者数をもたらした。

トランプ時代、イスラエルの指導者たちはさらに右傾化した。彼らはイスラエル政府を支持する同盟国を見つけた。そのことで、ヨルダン川西岸での入植を強行し、パレスチナ人との間で戦闘が爆発する火薬庫を作り出した。

2021年には、両者の衝突により、やはりパレスチナ人に不釣り合いな死者が出た。今年も、イスラエル人入植者がパレスチナ市民の家に放火するなど、恐怖と緊張は高まり続けている。

米国の公式な対イスラエル政策は、このような状況においても揺るがず、ほとんど変わっていない。しかし、国際社会は、そしてアメリカの左派の多くは注目している。

「イスラエルがパレスチナ人に押し付けている体制は、アパルトヘイト

そのものである。それは青天井の監獄以外の何ものでもない」

国連の専門家は昨年、記者団にこう語った。この言葉は、現在の紛争に先立つガザの状況をしめす国際的な形容詞になった。

### **アメリカのユダヤ人たちは、アメリカの新たな進歩的運動にどのように適合するのか？**

アメリカの若いユダヤ人は、年長者とは異なる方向に進んでいる。若いユダヤ人のうち、正統派を自認する人の割合が増えている一方で、無宗教と答える人の割合がさらに増えている。このデータは、「宗教」とイスラエル支持の間に強い相関関係があることを示している。

ギャラップのシニア・サイエンティスト、フランク・ニューポートはこう言う。

「信心深いアメリカ人は、そうでない人に比べて、イスラエルに対してずっと好意的である。全体として、ユダヤ系アメリカ人は一般大衆よりもイスラエルに対して好意的な見方をする傾向がある」

さらに、若いユダヤ人はイスラエルに感情的な愛着を感じていない。イスラエルに批判的な傾向も強い。

Jewish Electorate Institute の世論調査担当者が、2021 年に 800 人のユダヤ系アメリカ人にパレスチナに関するある質問をした。その結果、一部のユダヤ人指導者に衝撃が走った。

回答者の 58%が、ヨルダン川西岸地区での入植地拡大を支持せず、入植計画へのアメリカの援助を制限すべきだと答えたのである。

「イスラエルはアパルトヘイト国家である」という意見にへの反応を聞くと、およそ4分の1が「そのとおり」と答えた。

そして31%が、「イスラエルはパレスチナ人に対してジェノサイドを犯している」と答えた。

若いユダヤ人ほど、この2つの意見に賛成する傾向が強かった。

この調査結果が発表されたとき、ダートマス大学のユダヤ学教授はユダヤ系新聞『フォワード』紙にこう語った。

「胸が張り裂けそうで、まるで竜巻が私の顔に直撃したようです」

この結果は、意見の相違がユダヤ人と民主党の間だけでなく、アメリカ

のユダヤ人社会そのものに存在することを示した。

このような分裂は、復活しつつある進歩的運動の中で拡大している。

米国におけるパレスチナ人の苦境に対する認識は、主にブラック・ライブズ・マター（BLM）を中心とする社会正義運動の台頭とともに高まってきた。

BLM グループのリーダーたちは、自分たちの運動をパレスチナ解放の大義と結びつけ、入植者の植民地主義を批判している。

公民権運動時代もそうだったが、ユダヤ系アメリカ人は今日の社会正義運動においても重要な役割を果たしている。

人種的・経済的正義を支持し、移民や難民の権利を擁護し、生殖に関する権利を求めて闘うユダヤ人団体が多くある。

今日でも、ユダヤ系民主団体は、イスラエルによるガザとヨルダン川西岸地区の占領をやめるよう主張し、米国の政治家にパレスチナ人居住地区の占領を制限するよう求めている。

これらのユダヤ人団体は、宗教的伝統よりも文化的伝統に由来するユダヤ人としてのアイデンティティを強く意識することで結束している。彼らは自分たちの活動を、ユダヤ教の「世界を修復するせよ」という教えに結びつけている。

その義務感は、次のような考え方によって強化されている、私たちの存在は、ホロコースト生存者の子や孫として、ひとつの特権である。そのようなユダヤ系アメリカ人には弱者を守る義務がある。ガザ攻撃の中止を求めるアメリカのユダヤ人たちの抗議は、このような枠組みによって導かれている。

「私たちの伝統は、“人の命を救う”実践が他のすべての戒律に優先すると教えています」

ユダヤ人と移民が主導する、移民の拘束と強制送還に反対する団体「ネバー・アゲイン・アクション」は今週、声明の中でこう言う。

「人の命ほど尊いものはない」

### **青年の変化は反ユダヤ主義の高まりを背景としている**

2017年、白人至上主義者たちがバージニア州シャーロットビルでデモ行進した。

「ユダヤ人は我々の代わりにはならない」

それは米国において右翼反ユダヤ主義が依然として行きていることを思い起こさせた。

その1年後、ピッツバーグで銃を持った男がシナゴグに侵入し、ホロコースト生存者を含む11人を殺害した。

著名な文化人が反ユダヤ感情をあからさまに示し、国内外で暴力が拡大している。数え切れないほど多くの事件が起きている。

これらの瞬間は、ユダヤ系アメリカ人コミュニティにとってそれぞれ深い痛みを伴うものだった。

イスラエルの民間人に対する戦争犯罪が行われたというニュースを前にして、アメリカの左派の一部からイスラエルの民間人に対する攻撃に対する即時の反応もそうだった。

それはアメリカのユダヤ人にとって、自分たちの味方は誰なのか、より広い政治的状況の中で自分たちはどこに位置するのか、そして紛争が展開する中で自分たちは今どこに立

っているのか、という新たな痛みを伴う問題を提起した。

多くのユダヤ系アメリカ人は、ハマスのテロ攻撃や人質事件を受けて、イスラエルへの支持を改めて表明した。

戦争への反対を表明し、殺人をさらなる暴力にエスカレートさせないよう政治指導者に強く求めている人々もいる。

### **とはいえ、気持ちの整理は難しい**

週末、占領に反対する多くのユダヤ人がパレスチナ人と連帯する抗議行動に参加することは難しいと痛感させられた。というのも、抗議行動では提供できないもの動機、イスラエルの死者を悲しむ空間が必要だったからだ。

来るべき政治プロセスにおける自分たちの居場所と闘うために。気持ちの整理が迫られている。

それは、私たちの誰もがかつて直面したことのない深刻な状況だ。私たちは長い歴史の中で、不釣り合いな死者数に慣らされてきた。その結果、私たちが最も必要としているときに、私たちは気持ちのこもった政

治的なボキャブラリーを持ち得ないでいる。

誰もこの気持ちの結末がどうなるのか言い当てることはできない。現時点で保証されているのは、さらなるガザの惨禍だけである。

(訳 SS)